大森潤子 ゆふいんでシャコンヌを弾く



J.S.バッハ

- ★無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第2番 イ短調 BWV1003
- ★無伴奏ヴァイオリン・パルティータ 第2番 ニ短調 BWV1004(終楽章「シャコンヌ」)

大森潤子 (東京藝術大学音楽学部非常勤講師)

東京藝術大学を首席で卒業。同大学院、パリ国立 高等音楽院大学院第三過程ソロ科、室内楽科修了。 日仏のコンクールで賞を獲得、日本と欧州各地・ リサイタルを行う。東京フィル、仙台フィル、 幌交響楽団、藝大フィル、静響らにソリス首席を を務め、2008年より17年、札幌交響楽団首席を を務め、2008年からは札幌・北星学園大学等 を務め、2008年からは札幌・北星学園大学演奏と ルでバッハ無伴奏ヴァイオリン作品の連札幌イ を でがデビュー 10周年記念イザイ無伴奏ヴァイ テで教鞭を執り、富士山静岡交響楽団ゲスト サートマスターを務める。日本に於けるアウィストとして、日本各地で演奏を繰り広げている。

2023年10月17日 (火) 午後5時30分開演「ある風景」

大分県由布市湯布院町川北1265-1

東京藝術大学大学院在学中にアガーテ弦楽四重奏団として「ゆふいん音楽祭」に参加した大森潤子さんは、その後パリに留学。帰国後は、総務省が地域文化振興でアーティスト派遣を行うアーティストとして日本各地で演奏、札幌交響楽団の首席奏者にも就任し、北の都で人気者となります。

そんな多忙な日々の中でも、大森さんはゆふいんの地と人々を忘れることありませんでした。多くの場所を訪れ、暮らし、多くの音楽家との経験を積み、多くの人に出会うことで、ますますゆふいんを愛するようになったヴァイオリニストの音楽が、オープンしたばかりの田圃の中の素敵なカフェ「ある風景」で響きます。秋の夕暮れの由布岳に捧げる、渾身のシャコンヌ。